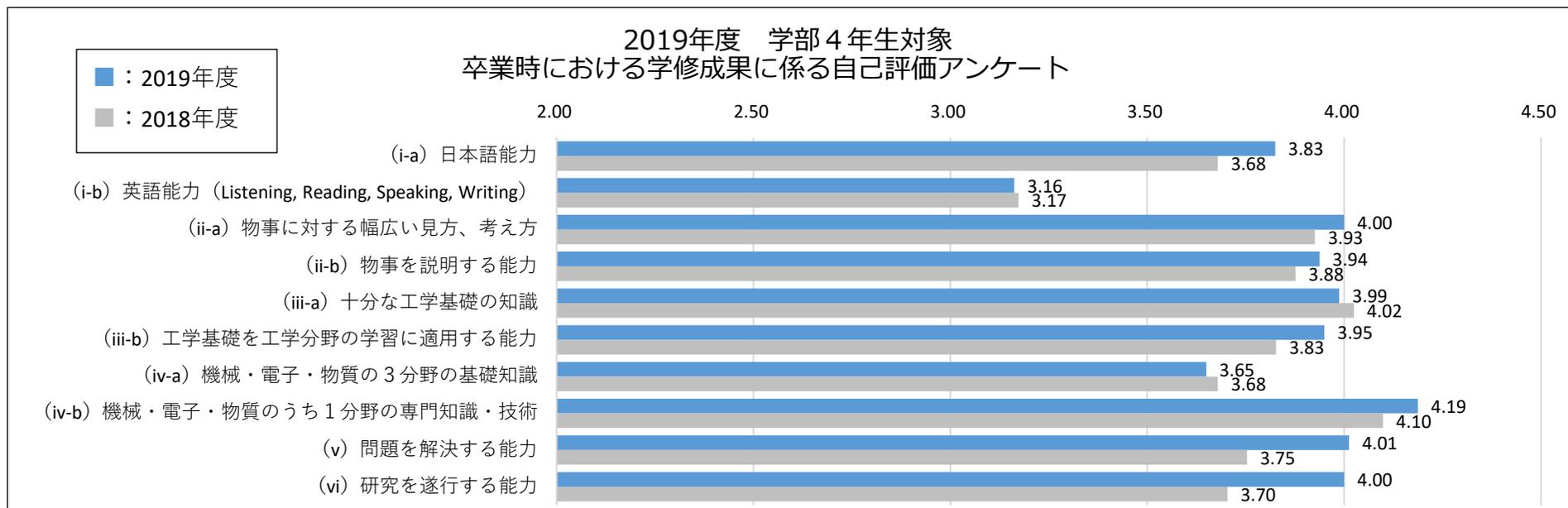


2019年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

2020.4.9教務委員会

回答率88%(回答者数80名/卒業者数91名)

質問項目 (ディプロマ・ポリシーに定める能力・知識の修得)	身についた (5点)	まあ 身についた (4点)	どちらとも 言えない (3点)	あまり 身につか なかった (2点)	身につか なかった (1点)	回答数	平均	<参考> 昨年度 平均
(i-a) 日本語能力	17	39	18	5	1	80	3.83	3.68
(i-b) 英語能力 (Listening, Reading, Speaking, Writing)	9	24	27	11	9	80	3.16	3.17
(ii-a) 物事に対する幅広い見方、考え方	21	44	10	4	1	80	4.00	3.93
(ii-b) 物事を説明する能力	13	53	11	2	1	80	3.94	3.88
(iii-a) 十分な工学基礎の知識	18	46	14	1	1	80	3.99	4.02
(iii-b) 工学基礎を工学分野の学習に適用する能力	21	41	12	5	1	80	3.95	3.83
(iv-a) 機械・電子・物質の3分野の基礎知識	14	34	24	6	2	80	3.65	3.68
(iv-b) 機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	30	41	5	2	2	80	4.19	4.10
(v) 問題を解決する能力	21	43	13	2	1	80	4.01	3.75
(vi) 研究を遂行する能力	18	49	9	3	1	80	4.00	3.70



【結果考察】

- ・ほとんどの項目で3.9前後の数値以上を示しており、学生が達成度を評価している。
- ・昨年度と比べ、10項目中7項目で評価が向上。特に、日本語能力、工学基礎知識、問題解決能力、研究遂行能力が大きく向上した。カリキュラムの大きな変更はなく、授業改善WGや教員個人の地道な改善活動(授業内容、指導方法等)は実施されている。
- ・英語能力に対する評価が昨年に引き続き低い。ただし、TOEICのスコア平均値そのものは入学時(460点)→卒業時(608点)へと148点向上しており(昨年は107点向上)、原因の検討が必要と考えられる。